

(別紙：様式案)

シンポジウム等の概要について(事後報告)

- 1 名称:公開シンポジウム「令和元年台風第 19 号に関する緊急報告会」
- 2 日本学術会議の主催者: 防災減災学術連携委員会、土木工学・建築学委員会
- 3 その他の主催団体等:
・主催:防災学術連携体
- 4 開催日時:令和元年 12 月 24 日(火) 13 時 00 分～18 時 00 分
- 5 開催場所:日本学術会議講堂
日本学術会議 2 階大会議室・大阪常翔ホールにて同時中継

6 開催趣旨:

10 月 12 日に大型で強い勢力で伊豆半島に上陸した台風 19 号は、広い範囲にわたり記録的な大雨をもたらした。静岡県、神奈川県、東京都、埼玉県、群馬県、山梨県、長野県、茨城県、栃木県、新潟県、福島県、宮城県、岩手県の 13 都県に大雨特別警報が発表され、10 日からの総雨量は神奈川県箱根で 1000 ミリに達し、17 地点で 500 ミリを超えた。

10 月 16 日時点で、68 河川 125 か所で堤防が決壊し、16 都県の、のべ 262 河川で越水等による氾濫が発生し、2 万棟以上の住宅が浸水し、77 名の死亡が確認されている。なお、被害の全容はまだ把握されておらず、台風後の大雨により、被害はさらに拡大した。政府は激甚災害、特定非常災害、大規模災害復興法の非常災害の適用を行った。

防災学術連携体(57 学会)は、防災減災学術連携委員会と連携し、ホームページに台風 19 号のページを開設し、学会の調査情報、国土交通省・気象庁などの最新情報を掲載し、関係者間の情報共有に努めている。

日本学術会議と防災学術連携体は、被害の拡大を防ぎ地球温暖化と共に激化する気象災害の軽減に取り組むため緊急報告会を開催する。台風 19 号に関する学会の調査結果を共有し、学会間の情報交流を進め、今後の対策を総合的に検討する。

7 参加人数:

合計 720 名(内訳:講演者等:33 名

その他の参加者:687 名

(日本学術会議講堂・2 階大会議室 387 名、大阪常翔ホール 300 名)

以上には報道関係者 14 社・23 名を含む)

8 特記事項:

本シンポジウムへの参加者は非常に多く、報道関係者にも注目された。

講演で用いられた資料(スライド)は防災学術連携体のホームページに掲載予定。

以上